

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)海老名市泉一丁目計画新築工事	階数	地上13F
建設地	海老名市泉一丁目1010番地1他	構造	RC造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	400人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,640時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2022年7月19日
敷地面積	3,541㎡	作成者	株式会社長谷工コーポレーション
建築面積	807㎡	確認日	2022年7月19日
延床面積	7,544㎡	確認者	株式会社長谷工コーポレーション



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 74% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 74%

④上記+ 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 3.1**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.6**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・住棟を西向きとして計画し、可能な限り道路よりセットバックさせることで、圧迫感を軽減するとともに周辺環境へ調和するよう配慮した。		<b>その他</b> ・電気自動車用充電設備を設置している。
<b>Q1 室内環境</b> ・断熱性能等級5を取得。ZEHのBELS認証取得予定につきUA値0.6以下、住棟BEI0.8以下。 ・住戸には庇(バルコニー)及びカーテンレールを設置。 ・F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用している。	<b>Q2 サービス性能</b> ・主要内装仕上げ材及び空調・給排水管について、更新必要間隔が優れたものを採用している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・周辺環境に配慮した建物配置・外観デザインとし、景観創出に努めた。 ・敷地内は可能な限り緑化に努め、潤いある環境を創出するとともに環境負荷低減に努めた。
<b>LR1 エネルギー</b> ・潜熱回収型給湯器を採用しエネルギーの有効利用を図るとともに、断熱性能等級5を確保することで建物の熱負荷の抑制に努める。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・躯体と仕上材が容易に分別可能となっている。 ・節水器具、雨水の再利用システムを採用し、水資源の保護を図っている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が参照値に対し74%。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される